

# 観 住まい

## 日本家屋の 伝統構法 II 宇宙律

このシリーズ広告のタイトル「観・住まい」は、文字通り、住まいを観る、の意だが、同時に、住まいを通して宇宙律を観る、の意でもある。

宇宙、そしてその一部である地球も人間も、生きとし生けるものすべては、あらゆる部分でつながり合い、支え合いながら、生きて脈動するひとつの生命。この大いなる生命は、部分II全体ひとつすべての関係で成り立っており、瞬時の休みなく変化し続け、進化し続けている。

この関係を「住まい」という形で表現したものが、正に日本古来の伝統構法でつくられた家そのものに他ならない。

去年の暮、12月21日、夢木香・松尾代表の計らいで、とても深く、宇宙律を観る機会を与えていただいた。



池田武邦さん、85歳の黎明期(60年代後半)70年代)建築家として一時代を画した人である。49年に東大工学部建築学を卒業。67年に日本設計事務所(現・日本設計)の設立に参画。建築を手がけた霞ヶ関ビル、新宿三井ビルなどは、正に日本の超高層ビルの走り。

池田さんは、仕事の絶頂期にあつた70年代の冬のある日、自分が設計した超高層ビル最上階の快適なオフィスから、地上に降り立った。雪が舞い、震える寒さ。でも、なぜか安らぎ、心地よかつた。天を仰ぎ「人間も自然の一部なのだ」と呟っていた。

以来、人工的な環境を前提とする建築に疑問を持つようになる。メビウスの帯が180度反転するように、気づきはほとんど深まり、それまでの自分の活動を全否定し、日本古来の伝統構法へと回帰していく。ひとつの極に達して始めて、180度の反転が可能になる。極に達しない限り、反転は起きず、同じ面(次元)を堂々巡りする。単なる抽象概念ではない。「表裏一体」が、180度反転することによって始めて、実体となる。この180度反転は、すべての創造の原理である。

現在、池田さんのお住まいは、大村湾に面して建つ、茅葺きの「和小家」。超高層ビルから茅葺きの和小屋へ。正に180度の反転である。

12月21日、午後2時。池田さんと対談するため、東京から来られた増田一真さん(木造の構造設計の第一人者、「伝統木構造」)

建築理論のプロで、これ程見事に、誰にでもわかるように、日本の伝統構法の素晴らしさを語る人はいないだろう。「僕も、伝統構法がいかに理にかなったものであるか、長い間書いたり、しゃべったりしていますが、あれだけ書いたり、言ったりしても、専門家は見向きもしない(笑)。若い人からは、池田さん、それは先祖がえりです」と言われてしまふ(笑)。専門バカじゃなく、普通の人たちに伝統構法の素晴らしさを伝えていく方が、余程早いでしょうね。」

と池田さん。建築界に限らないが、本当に大切なことをわかっていない、わがごとくしなない、わがごとく横行する現状。お二人決して言葉を荒げたりはしないが、先祖代々の知恵の魂である伝統構法のすばらしさを、一人でも多くの人に伝え、火を絶やさずに再生していこうという深い思い、静かな使命感が伝わってくる。お二人の話にとても説得力があるのは、お二人にその深い思いがあるからに他ならない。

時折、池田さんが太くて長い火吹き竹を静かに吹く。勢いの落ちかけた薪の火が燃える。誰かとても「火を見てるっつのは、いいですね」の声。同感！「伝統」と言うと、古いもの、後ろ向きと誤解されがちだが、とんでもない！「伝統『基本』」と捉えれば、古いも新しいもなし、前向き、後ろ向きもない。「基本」は常に「今」そのものなのだ。

開け直しの火と同じ。火を絶やさないうためには、新しい薪をくべ、静かに火吹き竹を吹くだけでいい。火は

の会(会長)、その他、出版社の方など、総勢9名で、茅葺きの池田邸にお邪魔した。

美しい茅葺き屋根から、うっすらと煙が漏れ出ている。池田さんに招き入れていただき、靴のまま、玄関前の木つくりのペランダに上がった。大村湾の静かな波が、足元まで音もなく寄せ寄せてくる。足元の海水は澄み切って、「これ、本当に海？」と思う程。吹く風は枝を鳴らす。鳥たちもさえずりをやめて小休止中。静かだ。

100メートル先の海面上に立ち、こちらを振り返る自分をイメージした。静かな水面。まるでその水面の上に建っているかのよう。茅葺きの美しい和小屋。両者は全く違和感なく、ひとつに融合合っている。美しい！ 瞬時に和み、アルファ波状態になった。

上にならせていただいた。中央に大きな開け窓。池田さんが毎朝の目醒にしているという、雑巾がけ3回、風呂がき4回の掃除。板の間の艶が美しく、自在の竹も煤で見事に黒光りしている。天井の茅もとてもいい色合い。自然に和む。各人、思い思いに開け窓の前に座る。しばらくの静けさ。メンバー紹介の後、お二人の対談は、さり気なく始まった。

85才ととても思えない。池田さんのハリのある声。明瞭な言語。そして何よりもその自然さ。現在でも日本建築界のビッグネームでありながら、構えたところが全くなく、自然体。紛いものの権威を臆面もなくひけらかす輩を見慣れた目には、新鮮で、とても心地よい。増田さん、然り。

燃え続ける。「火」とは正に「今」そのもの。

昨5月13日、棟梁の納富さんに誘われて、飯塚の伊藤伝衛門の邸宅、飯塚町にある千年家(横大路家)を見て来た。両所とも、伝統構法の見事さ、職人の技の凄さに思わず唖つてしまった。

805年。伝教大師(最澄)が唐から帰国した折りに持ち帰ったという「法理の火」。その火を1200余年の間、絶やさずに守りかまどの火を見た時には、思わず震えがきた。1571年に信長が焼打ちして絶えてしまった、比叡山延暦寺の法灯は、この横大路家の火を親火として再び灯されていくという。そう、親火さえ絶やさなければ、いつでも再生できるのだ。

来たる6月27日の日曜日に、佐賀の古民家に学ぶ会と夢木香の企画で、池田、増田両氏を佐賀に呼び、講演会とパネルディスカッションが開催されることになった。紛いものの講演会は山程あるが、本当に大切な、本物の講演会は滅多にない。これから家づくりを考えている人たちには特に、お二人の話を聞いてみることをお奨めしたい。日本古来の伝統構法が、決して古色蒼然とした過去の遺物などではなく、正に「今」そのものの表現であること、を、無理なく納得していただけるだろう。奮ってご参加下さい！

**講演会 子どもたちの未来へ夢のある住まいを 主催 佐賀の古民家に学ぶ会**

**日時** 平成22年6月27日(日) 13:00~17:30(受付12:30~)

**場所** 佐賀大学経済学部第4号館(講義棟2F)

**講師** 池田武邦氏「超高層から茅葺へ」  
増田一真氏「伝統技術と日本の山林を守ろう」

株式会社 夢木香 <http://www.yumekikou-happy.com>  
フリーダイヤル 0120-835-832

**セミナー開催!!!** **日時** 22年7月4日(日) 13:30~15:30

**場所** 佐賀市交流センター 佐賀市白山2-7-1 エスプラッツ3F

「子どもたちが危ない!!! 身近に潜む化学物質過敏症」  
NPO シグナルキャッチ 代表 鹿兒島ひとみ氏

「土壁のさわやかさの秘密」一級建築士 和田恵利子

**お問い合わせ (有) 夢木香まで TEL、FAX、メールにて  
お申込み先 お願い致します。(先着30名様)**

設計・施工 **ゆめきこう**  
株式会社 **夢木香**  
☎ 0120-835-832  
<http://www.yumekikou-happy.com>  
e-mail: yumekikou@globe.ocn.ne.jp  
TEL 0954-69-8333 / FAX 0954-69-8334  
佐賀県鹿島市大字三河内甲 2487  
日本民家再生協会正会員